

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・ホームの理念を掲示し、ホーム会議・朝礼で唱和し理念の共有化に努めている	ホーム独自の理念を毎週月曜日の朝礼で唱和し、徹底している。利用者や家族には入居時に話をしホームの考え方を伝えている。理念についての研修会も実施し、利用者の思いを理解しつつ「安全5つの誓い」も確認しながら活動している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内の行事に参加して頂いたり、地区の育成会の催しでの子供たちとの交流や文化祭への作品出品など地域とのつながりを大切にしている	区費を納入し、自治会行事の案内も受けており、地区の清掃活動にも参加している。地区のお祭りのときにはお神輿が来訪し利用者が楽しみ、文化祭や正月のどんど焼きの案内もいただき見物することもある。また、ボランティアが定期的に来訪したり市内の中学生の職場体験学習なども受け入れており、徐々に交流の輪が広がっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご利用者様に迷惑のかからない範囲内で必要に応じて事業所の特質を活かした広報を心がけ、市や社協と合同での活動も積極的に参加している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議で頂いたご意見を職員全員で共有して、サービスの向上に向け話し合い取り組んでいる	会議は年6回、家族代表、区長、市高齢福祉課職員などが出席し、隣接する小規模多機能型居宅介護事業所と合同で行われている。会議の目的である「地域の方と共に協力し自治体も交え良い関係を作り情報交換をし地域密着型施設の理解、協力を得て行く」をベースに意見交換をし、サービス向上に役立っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じ報告・連絡・相談を実施している。ご意見に対してはすぐ検討し実施するようになっている	市高齢福祉課担当者とは報告や相談を通して関わっていただいている。ホームの空き情報等も連絡し利用者の紹介をしていただくこともある。市主催の研修会には出来るだけ出席し、毎月開かれているケアマネージャー連絡会議にはスタッフも参加している。介護相談員も年1回来訪し、利用者個々の様子を見たり要望を汲み上げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	最低でも年に1回以上は研修を行ない、日常的にケアにおいて問題があればその都度指導し、全職員での共有が出来るよう取り組んでいる。現在、夜間のみ玄関の施錠をしており、居室の施錠はしていない	管理者の方針として「身体拘束の排除」が打ち出されており、そのために年1回身体拘束のない介護の研修を実施しホームが一丸となって取り組んでいる。事故の起きない環境を整備し柔軟な応援体制を確保するという意味からスタッフ全員が利用者の声をよく聞き、また、各居室の巡回をこまめに実施している。帰宅願望の強い方については家族に連絡を取るが近隣を散歩することで気分転換を図っている。	

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	毎年、勉強会をホーム全体で行なうと共にご利用者様の身体や精神面の変化に常に気を配り、小さな変化も必ず報告するように職員全員に指導し、都度カンファレンスすることで風通しを良くしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年まで、成年後見人制度を利用されているご利用者様がおられ、学ぶ機会が必要と考え定期的に勉強会の機会を作っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約取り交わし時に契約書・重要事項説明書にそって(個人情報取り扱いも含)説明、疑問・不明点を確認している。また、後日気付いた点等あった場合、お知らせいただけるようお願いしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会等の機会にご家族様とコミュニケーションを取り、率直なご意見等を頂ける様働きかけている。頂いたご意見・苦情等は早急に共有し解決に向けて話し合うようにしている。自治体・県相談窓口を施設内重要事項説明書に掲示し、当事業所内にも窓口のあることをお知らせしている	殆どの利用者が自分の思いを伝えられるが、気持ちを受け入れるべくきめ細かな問いかけを行うよう心掛け、意思表示に対し真摯に答えるようにしている。家族に対してはホーム便り「ほほえみギャラリー」を毎月配布し、また、不定期ではあるが家族会を開催し意見や要望をいただき、早急に対応することを徹底している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議で発言する場を設けたり、個々に面談を行なっている。日頃から職場内で意見を言いやすい環境づくりに取り組んでいる	月1回、ホーム会議で連絡や意見交換、研修会等を実施し、別に、ユニット会議、四つある各委員会を随時開催することにより職場内の意見を吸い上げ事業所全体のボトムアップを図っている。また、管理者による個人面談も年1回実施され、的確な助言と「OJT」がされ、職員のやる気と活力に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別職員の意向を重視しながら やりがいや向上心を持てる職場環境づくりに取り組めるよう働きかけがある。人事考課により個別の業績評価の機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じ、法人内研修の受講を実施している		

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質を向上させる為、勉強会やネットワーク作りにもっと真剣に取り組んでいきたい		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接・相談から得たご利用者様についての情報を共有し、安心して過ごしていただける環境作りを心がけている。日常においてもよくコミュニケーションをとり、訴えを聞き取るように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接。相談において不安や困った事等をよく伺い、要望・状況に基づいたプラン作りにも努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご入居理由をしっかりと伺い、その方にとって一番よいサービス方法のひとつをお話させて頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常においてよくコミュニケーションを取ると共に必要に応じてスキンシップをはかり、協力しながら生活を共に築いていく姿勢に努めている		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が面会に来られた際に食事の介助をして頂いたり、日頃の様子や心身状態をお伝えしている。また、月に一度お手紙で近状をお知らせしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常の生活の中で過去の記憶や思い出をお聴きし、共有・共感出来る様に努めている	友達が来訪される利用者が数名いるが、お茶を出し接待している。また、電話の取次は子機で行い、手紙の投函も行っている。買い物については基本的には家族に連絡するが、身の回りの物についてはスタッフが同行し馴染みの店に行っている。	

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの立場を把握し、ご利用者同士が上手くコミュニケーション取れるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙を差し上げる等、柔軟な対応に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全員がご利用者様一人ひとりに寄り添い、希望や意向を十分理解できるよう努めている。また、カンファレンスなどでも検討する機会を多く設けている	殆どの方が何らかの形で自分の思いや意向を伝えられるが、利用者一人ひとりの声を聴き、表情を見、思いの把握が出来るようにしている。利用者に接する中で得た情報を日々の申し送りで職員が共有し、何か問題が起きれば即対応、解決するようにしている。また、食事の献立については利用者の希望を聞いて立てたり季節に応じた内容としている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前のアセスメントにより得たご利用者様それぞれの情報を全職員で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的に検討し、現有機能を活かした支援に努めている。心身状態について都度細かに申し送り、職員全員が把握し、安心して生活して頂ける様支援している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様がより安心して暮らして頂ける様、カンファレンスでの意見やご家族様の要望・ご意見も取り入れた介護計画書を作成、計画に基づいた支援をしている。また、必要に応じて都度カンファレンスを行ない、現状に添った計画書を作成している	職員は1~2名の利用者を受け持ち、利用者のプランの進行状況や状態を確認しつつ支援をしている。介護計画の見直しは基本的には6ヶ月に1回行われ、見直し前には家族との話し合いを持ち、意向や要望を取り入れた介護計画を作成している。モニタリングが介護計画変更に合わせて行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の日々の様子を個別に記録している。特別なことがあった場合は申し送りをし、職員間で情報を共有してその日の状態に合ったケアを行なっている。また状態によっては早急にカンファレンスを行なっている		

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	許される範囲内で柔軟な姿勢でニーズに応じて		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回提携医に訪問診療して頂いている他に、ご家族希望のかかりつけ医には適宜受診して頂いている。医療機関同士で連絡を取り合っており、訪問診療の経過、ホームの様子についてご家族様へ定期的に連絡している	提携医の往診が月2回実施されている。数名の利用者が家族の付き添いでかかりつけ医で受診している。また、歯科についても不定期ではあるが往診が受けられるようになっている。訪問看護ステーションとも契約が出来、週1回訪問があり、24時間対応が可能で支援体制に益々厚みが出た。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問の際には容態を報告し、「訪問看護記録」にその様子等を記録していただき 全職員に申し送っている。1回/月は訪問診療・訪問看護立会いで 情報共有して下さる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の病院と提携医で利用者の様子について連絡を取り合っている。入院中は、管理者・ケアマネージャーが病院訪問し情報交換を行なっている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の希望やご本人の思いが叶う様医療と連携を取りながら安楽な生活をして頂けるよう支援している	重度化や終末期支援については利用開始時に方針を説明し同意をいただいている。状況が変化した場合家族の希望も聞き、主治医、訪問看護師と連携・協力し本人や家族が安らかな気持ちになれるようホーム全体で支援している。過去に1名、ホームで最期を迎えられた方がおり家族から感謝の言葉を頂いた。看取り、終末期の心構えについては管理者がホーム内研修を実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に対して「緊急対応マニュアル」をフロア内に掲示すると共にケアスタッフマニュアルに記載された対応を熟読し実践できる様に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行いそれぞれの利用者の避難方法を話し合い、地域にも協力して頂ける様お願いし、協力体制に努めている	年2回、消防署員の参加を得て実施し、9月には自主防災訓練も実施した。利用者も参加し行われ、車イスの方も含め全利用者を職員が手助けし誘導した。非常通報訓練も実際に消防署に通報して行われた。夜間における緊急連絡網も整備し避難誘導がスムーズに行われるよう取り組んでいる。また、初期消火に対するの備えや防火設備等も充実し、非常食等の備蓄も用意されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮した声かけを行ない、尊敬の思いを持ってお話させていただく様に徹底統一している。個人情報の破棄にはシュレッダーを使用している	呼び名は基本的には「苗字」にさんづけでお呼びしているが、希望があれば名前でお呼びし、対外的には総称して「お客様」とお呼びし尊敬の気持ちを表しプライバシーを損ねない声掛けをしている。また、コンプライアンスの遵守に力を入れ個人情報保護トレーニングを実施し、基準点が取れるまで何回でも受けて周知徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様の意志を引き出せる様な声かけや、思いや希望を表せるような環境作りに努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	その日、その時の意思を尊重し、体調と合わせてそれぞれのペースで毎日を過ごして頂ける様支援させて頂いている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面や整髪・髭剃り等出来る事はして頂き、ご本人の希望に添った支援をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご希望をお聞きしてお好きな物や馴染みの料理を取り入れ、下ごしらえや器の準備等一緒にして頂いている。また、おやきやおはぎ等手作りの行事を企画して活躍の場を作り、楽しみながら食事をして頂けるように工夫している	自力で摂取できる方が8割、一部介助の方、全介助の方が若干名いる。お手伝いの出来る方は7割ほどで調理まで手伝われる方もおり、配膳を含めて楽しそうに手伝っていた。献立、調理はスタッフが行うが、利用者の希望を取り入れた季節の献立もあり、誕生日会は午後のティータイムにケーキで楽しんでいる。野菜をホームの畑で育て、近所からの差し入れも数多くある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人のペースで水分が摂れる様に、ゆっくり時間をとる、お好きな飲み物を選んで頂く、時間に拘らずこまめに声かけする等の工夫しつつ、体調によりメニューや食事の形態を変更するなど状況に応じて都度対応させて頂いている		

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	提携医の指導も踏まえ、個々の状態に合わせた口腔ケアを毎食後行なっている。また、必要に応じてアイスマッサージなども行なっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を活用し、個々の排泄パターンや習慣に合わせた声かけ、誘導・介助を行ない出来る限り自立での排泄が続けていける様に支援している	全介助の方が若干名、その他の方は一部介助も含めてトイレでの排泄が出来ている。殆どの方がリハビリパンツとパット使用であるが布パンツで自立されている方もいる。自らの意思で教えていただく方もいるが、基本的には1日5回、時間を見て声掛けし誘導している。夜間、ポータブルトイレ使用の方が若干名おり、トイレ誘導が必要な方も半分ほどいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分・乳製品等摂って頂くようにしている。水分が摂りにくい方にはゼリーなどで摂取して頂いている。また、食事には繊維質の多い食材を取り入れたり、定期的な散歩や毎日の体操を行なうなど予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の体調や様子に配慮しながら出来る限り希望に添って入浴して頂いている。気乗りしない日は手足浴を勧めたり入浴剤を使用するなど気分転換をして頂けるように工夫している	自立の方が数名、その他の方は一部介助で二人介助の方もいる、基本的には週2回入浴しており、3回の方もいる。入浴の時間は本人の体調や希望に合わせて対応し、入浴剤を日によって変えたりして楽しく入浴出来るよう工夫している。また、浴室内には浴室用換気暖房機が設置され快適である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、天候や状態に応じて外気浴・レクリエーション等の参加の声かけをしているが、それぞれにお好きな事をして頂き、気分転換を図るなど安眠休息のための個別支援に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は服薬マニュアルにしたがって管理しており、提携薬局より都度指導頂き、薬局担当が申し送り全職員が理解できるように努めている。また、症状の変化等について提携医と連携をとり、確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの特技や趣味を活かせるように日々支援している。毎月2回程度、誕生日会や季節の行事を計画、準備から協力して行事を盛り上げて頂き気分転換できるように支援している		

ニチイケアセンター 柏木

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様のご希望がある時は積極的に出かけ、職員からの声かけでも定期的に屋外に出かける機会を作るように努めている。また、ご家族様の協力も得て出かけられる様に支援している	買い物の希望のある時は積極的にお連れしている。車イスの利用者もいるが基本的には職員が付き添い事業所の近くを週3回～4回散歩するようにしている。また、事業所には木製のウッドデッキが設置されているので天気の良い日には日向ぼっこを兼ね外気に触れている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に一括管理させて頂いているが、ご本人様の希望や必要に応じて買い物等に出かけ、ご自身でお支払いして頂けるよう援助している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時はいつでもご家族様や大切な方と電話・手紙のやり取り後出来る様に援助している。また、毎年フロアで年賀状をご本人様の自筆で手作りし、ご家族様に送らせて頂いている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や混乱を招く事のない様極力配慮している。係りが中心となって、生活感や季節感をとり入れた装飾等を行ない、居心地良く過ごして頂ける様工夫している	利用者が多くの時間を過ごすホールはクリーム色の壁と木目調の床でゆったりとした雰囲気である。大きな窓からは中央アルプスが望める。冷暖房はルームエアコンで、ホールには床暖が設置され快適である。ホールと廊下の壁には利用者が作成した折り紙や紙細工の作品が飾られ、日々のレクリエーションの様子が見て取れる。また、職員による季節感を出した飾りもあり工夫が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご希望を伺ったり、ご本人の様子によって声かけするなどして、一人ひとりが思い思いに過ごして頂ける様に心がけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様・ご家族様と相談して、使い慣れた物や家具を置くなど、馴染みのある居心地の良い環境作りの工夫に努めている	清潔感溢れる各居室からは外の景色が望め開放感がある。冷暖房はルームエアコンで行い、各居室には大きなクローゼットがあり、ゆとりが感じられる。また、ベット、家具、テレビ等の調度品は利用者の好みものが持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行や移動の妨げになる物、危険だと思われる物は取り除くなど安全に配慮しながらご本人の意思で出来る限り自立した生活が出来るよう援助している		